全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします。

児童、生徒への指導の充実や、学習状況の改善などに役立てるため、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、「全国学力・学習状況調査」が今年5月に行われました。

調査は、国語と算数・数学、理科の各3教科と、児童・生徒質問紙調査（生活習慣、学習意欲・環境などの調査）が行われました。

小学校では

▼国語、算数、理科とも、全国平均正答率（以下、全国値）を10ポイント以上上回る結果でした。

学習指導要領の領域別平均正答率からみると、国語については、全ての領域で全国値を上回る結果でした。「書くこと（書く能力）」については、全国値を上回ったものの、平均正答率が6割台で、課題が伺える部分もありました。

また、表現の効果を考えて適切なものを選択する問題においては、示された部分がどのような効果をもたらすのか考えながら読み取る問題についても正答率がやや低い結果となり、今後、力をつけたい部分と言えます。

算数についても、全ての領域で全国値を上回り、その割合も全ての領域が7割以上の正答率という結果でした。全体的には全国値を上回ったものの、示された場面において目的に合った数の処理の仕方を考えたり、数量の変化と割合の変化との関係について考察したりする問題に対する正答率がやや低く、課題が伺える部分もありました。

理科については、全体では全国値を大きく上回ったものの、領域別平均正答率のうち、A区分「エネルギーを柱とする領域」では、全国値をわずかながら下回る結果でした。物の性質を基に、実験と照らし合わせながら考察をしたり、実験で得た結果を基に解釈し、自分の考えを持ち説明したりする問題に課題が伺えました。

▼自己有用感については良好、教科への関心についてもとても高い傾向にあります。

質問紙の回答について、肯定的な回答が全国値を上回っている回答が全体の9割以上ありました。

教科への関心や必要性、授業に対する理解度などについても、昨年度同様高い値でした。昨年度の調査で課題としてあげられていた、「記述式の問題への取り組み方」について、今年度の回答では「最後まで解答を書こうと努力した」という回答が全国値より高く、どの教科も9割を上回る結果でした。最後まで根気強く問題に取り組もうとする様子が伺えました。

中学校では

▼国語、数学、理科とも、題意の理解や読み取る力の育成が求められます。

国語については、全国値を大きく下回りました。

学習指導要領の領域別平均正答率からみると、「読むこと」の領域においては、全国値には届かなかったものの、全国値に近い平均正答率でした。一方で、特に「話すこと・聞くこと」の領域において、他領域に比べ大きく全国値を下回り、課題が伺えました。問題形式別では、特に記述式の問題に対する正答率が大きく下回る結果でした。

数学については、全国値をやや下回りました。

学習指導要領の領域別平均正答率からみると、「図形」領域のみが全国値をやや上回り、それ以外の領域については全国値を下回る結果でした。問題形式別では、短答式の問題に対する正答率が全国値をやや下回り、それ以外の問題形式別正答率は全国値を大きく下回る結果でした。

理科については、全国値をやや下回りました。

学習指導要領の領域別平均正答率からみると、「科学的な思考・判断・表現」に関わる領域が大きく下回る結果でした。無答率は全体的に低いものの、基礎・基本の定着に課題が伺える結果でした。

▼学習に対する興味関心は上昇、自己有用感の高揚に課題が見られます。

質問紙の回答について、肯定的な回答が全国値を上回っている回答が全体の5割以上ありました。地域との関わりに関する項目や、PCやタブレットなどのICTの効果的な利活用に関わる項目に対しては、ほとんどが全国値を上回る結果でした。

教科に対する興味関心や将来への有用感などの項目については上昇傾向にあるものの、自分の将来への意識や自己有用感については課題が見受けられます。また、質問紙の中で問われた「記述式の問題への取り組み方」について、「書く問題で解答しなかったり、書くことを途中であきらめたりしたものがあった」という回答が全国値より高く、課題であることが伺えます。

成果のみられる部分

□小学校では、国語、算数、理科ともに学習への興味関心について肯定的な回答が非常に高く、さらに教科学力も、全国値を大きく上回っています。児童の学習に対する意欲が理解にもつながっている大きな成果が見られます。

□中学校では、国語の言葉の特徴や使い方に関する事項で全国値を上回るものがあり、語句の理解について成果が表れているところも見られます。

□小学校、中学校ともに、学習に対するICT機器の活用について肯定的な回答が全国値を大きく上回る項目が多く、教師が授業の中で積極的にICT機器を活用するとともに、児童・生徒も意欲的に利活用していることが伺えます。

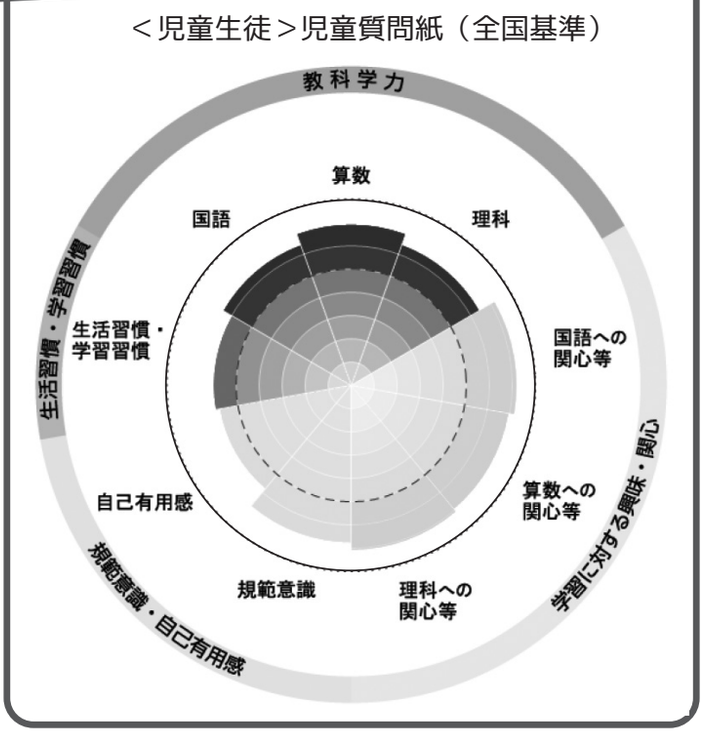
□小学校、中学校ともに、地域や社会に対する意識の高まりが見られ、全国値も大きく上回っています。それぞれの学校における、地域学習をはじめとしたふるさとキャリア教育に関する取り組みの成果が見られます。

課題のみられる部分

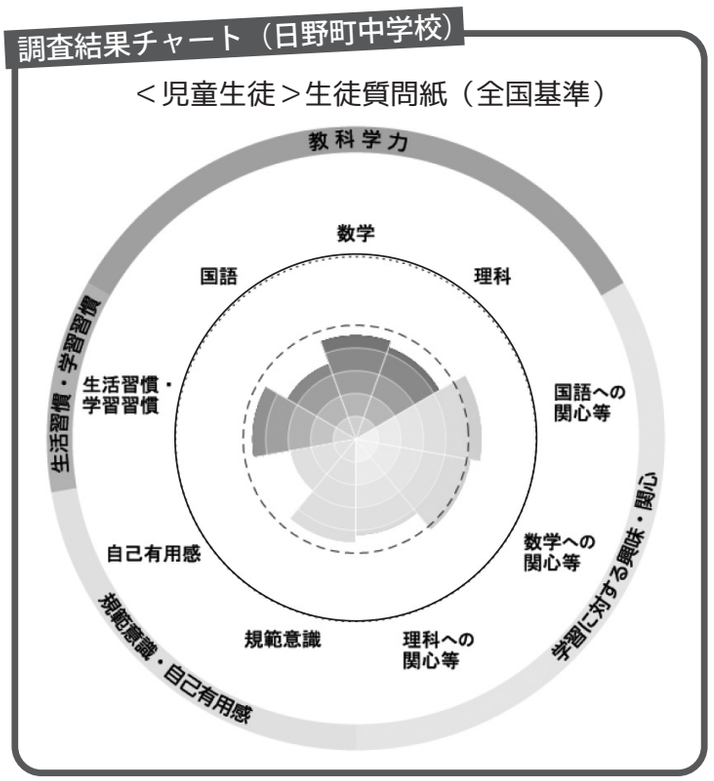
■書くこと（書く能力）

求められた条件に当てはめながら書いたり、必要な情報を取捨選択し、自分の考えや意見を的確に記述したりする力をさらに伸ばしていく必要があるといえます。

調査結果チャート（日野町小学校）



調査結果チャート（日野町中学校）



▼各教科は正答率、ほかの項目は質問紙調査での肯定的な意見を、全国平均と比較して表しています。
▼中央の ------ 線は全国平均です。------ 線より外側に出ている項目は全国平均以上、------ 線より内側は全国平均未満を表しています。外に広がっている項目ほど、正答率が高い、肯定的な意見が多い結果を表しています。（中学校の結果も同様です）